

## L-ラムノース

英名： L-Rhamnose

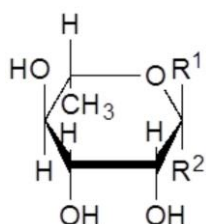
CAS No. 10030-85-0

JECFA No. 該当なし

別名： L-Rhamnopyranose monohydrate

6-Deoxy-L-mannose

構造式：  $C_6H_{12}O_5 \cdot H_2O$



$\alpha$ -L-ラムノースピラノース：R<sup>1</sup>=OH, R<sup>2</sup>=H

$\beta$ -L-ラムノースピラノース：R<sup>1</sup>=H, R<sup>2</sup>=OH

### 1. 基原・製法

本品は、ルチン（抽出物）（アズキ（*Vigna angularis* (Willd.) Ohwi & H. Ohashi）の全草、エンジュ（*Styphnolobium japonicum* (L.) Schott (*Sophora japonica* L.)) のつぼみ若しくは花又はソバ（*Fagopyrum esculentum* Moench）の全草から得られた、ルチンを主成分とするものをいう）又はアマダイダイ（*Citrus sinensis* (L.) Osbeck）若しくはウンシュウミカン（*Citrus unshiu* (Swingle) S. Malcov.）の果皮、樹皮若しくは花に含まれる配糖体又は大豆油、菜種油若しくはコーン油を発酵、濃縮分離して得られたラムノ脂質を、加水分解し、分離して得られたものである。成分は、L-ラムノースである。

### 2. 主な用途

甘味料

### 3. 安全性試験の概要

#### 1) 急性毒性試験

経口投与の情報なし

#### 2) 反復投与毒性試験

反復投与に関する情報なし

#### 3) 変異原性試験

細菌を用いる復帰突然変異試験（Ames 試験）、細菌を用いる染色体異常試験、マウスを用いる小核試験を実施し、いずれも陰性であった<sup>1)</sup>。

**4) その他**

その他試験に関する情報なし

**5) 海外評価書における扱い**

海外での評価情報なし

**4. 食品添加物公定書の規格**

規格あり

**5. 結論**

L-ラムノースは、基原、製法及び本質と、入手可能であった安全性試験の情報（変異原性試験）に鑑み、現状の食品添加物としての使用において、ヒトの健康影響に対する懸念はないものと結論された。

**6. 参考資料**

第9版食品添加物公定書解説書 2019